

5 平成17年度 横浜市立図書館の目標と振り返り

この「目標」は、平成17年度教育委員会運営方針に基づき、中央図書館と17の地域図書館が進める 事業の内容と取組姿勢について取りまとめたものです。

**基本目標** 市民が必要とする情報を提供するとともに、図書館職員一人ひとりが 資質の向上に努め、図書館サービスの一層の充実を図ります。

目 標	項 目	具 体 的 取 組	達 成 状 況 (平成18年3月31日現在)
利用者にとって、より便利で快適な図書館を目指します	インターネット図書貸出予約の実施	●インターネットによる図書の貸出予約の受付を、平成17年10月から実施します。	17年10月から図書館ホームページや利用者用検索機で、図書の予約や貸出・予約状況の確認、貸出期間の延長ができるようになりました。
	身近な公共施設での図書の貸出・返却の試行	●行政サービスコーナーや地区センターなどでの図書の貸出・返却を、区役所と連携して試行調査します。 ①平成17年5月 青葉区市が尾駅で本の返却。 ②平成17年12月 青葉区・地区センター(1箇所)、旭区・戸塚区の行政サービスコーナー(各1箇所)で本の貸出・返却。	行政サービスコーナーや地区センター、駅返却ポストなどで図書の貸出・返却サービスを区役所と連携し試行調査として実施しています。 ○青葉区の奈良地区センターで本の貸出・返却取次ぎサービスを実施。また青葉台駅、市が尾駅、たまプラーザ駅に返却ポストを設置しました。(返却ポストは各駅1日約100冊の返却があります。) ○旭区二俣川駅及び戸塚区東戸塚駅の行政サービスコーナーで本の貸出・返却取次ぎサービスを実施しています。(12月開始から2月末までに両施設で延べ約5300人の貸出利用がありました。)
	宅配等による図書の貸出・返却の検討	●宅配サービスやコンビニを利用した有償での図書の貸出・返却の検討を進めます。	関連業者等へのヒアリングや、他自治体での実施状況の調査を行い、実施時の課題を整理しました。引き続き、実施の可能性について検討していきます。
	公共情報端末の設置の試行	●利用者が自由にインターネットを閲覧できる公共情報端末の設置を、中央図書館で試行します。	18年2月からインターネット端末を5台設置し、利用者に提供しています。(1日あたり約40人利用)
	安全で快適な環境づくり	①ISO14001の取組を進めます。 ②図書館の再整備(耐震工事を含む)を計画的に進めます。 ③図書館のセキュリティ対策を、引き続き推進します。 ④利用者のマナーが向上するように働きかけを行います。	①17年8月から10月にかけて、図書館全職員を対象に研修を行いました。また、図書館全館で監査を受けましたが、指摘事項はありませんでした。今後も積極的に取組みます。 ②戸塚図書館の耐震及び再整備工事のための実施設計を行いました。(18年度着工予定) ③本棚の転倒防止対策や、防犯ミラーの設置などを行いました。 ④各種掲示や呼びかけ等、利用者マナーの向上に努めました。
	わかりやすい図書館サービスの提供	●資料収集基準の改定について、検討します。	資料収集基準を改定しました。今後、ホームページに掲載します。
	利用者の要望の把握	①全図書館に「意見箱」を設置します。 ②利用者(満足度)アンケートを実施します。	①全図書館に「意見箱」を設置しました。 ②市役所全体の窓口アンケートの一環として実施しました。図書館独自のアンケートは、18年度に実施を予定しています。
様々な団体・学校・家庭などへの支援を推進し、図書館の役割を拡大します	学校教育への支援	●教職員向け貸出制度を開始します。	平成17年6月から教職員向け貸出サービスを実施し、延べ約300件、7000冊の図書を貸出しました。
	家庭教育への支援	●読み聞かせ講習会の開催などを行い、幼児を持つ保護者の読書活動を支援します。	子どもと楽しむ絵本講座を実施しました。(1回、参加人数58人)
	ボランティアの養成・支援、市民との協働	①「図書館友の会」(仮称)の設置を検討します。 ②読み聞かせ等ボランティア養成講座を実施(予定実施回数6回)します。 ③図書館におけるボランティア活動の拡充に努めます。	①他図書館の先行事例の調査を行いました。 ②中央図書館及び地域図書館(泉、中、栄、保土ヶ谷、都筑)で全7講座を実施しました。いずれも募集人数を上回る申込みがありました。(延べ参加人員 389人) ③新たに図書館ボランティアが活動できる範囲・分野を検討しました。
	行政への支援	●市政の業務遂行に必要な資料・情報を提供することで、行政サービス向上のための支援を行います。	先進的な取組みとして、市政の業務遂行に必要な資料・情報の提供を積極的に行いました。

目 標	項 目	具 体 的 取 組	達 成 状 況 (平成18年3月31日現在)
拡信図 大に書 館によ りかめ 利用の 者情層 報の発	図書館ホームページの充実	①全図書館でホームページを開設します。 ②図書館ホームページを情報発信の手段として積極的に活用するとともに、コンテンツの充実に努めます。	①18年1月に地域図書館14館のホームページを開設し、18館全館のホームページがそろいました。 ②トップページに「図書館の催し物」欄を新設したほか、「資料目録」や「テーマリスト」「予約の多い本」を掲載するなどコンテンツの充実に努めました。
	外国人居住者へのサービスの向上	●外国人市民へのサービスの向上を図るため、外国語資料を充実するとともに所蔵状況を積極的にPRします。	バンクーバー、上海市に加え、新たに台北市の図書館との図書交換を行い外国語図書の充実を図りました。また、中国語図書の所蔵一覧を作成し、関係団体等へ配布しPRに努めました。
市民の調査研究を支援します	ビジネス支援の強化	●ビジネス関連資料の充実を図るとともに、Eメールでのレファレンスを進めます。	約360件のEメールレファレンスを受け付け、回答しました。
	市民の調査研究への支援	①レファレンス事例集をホームページで公開します。 ②市民向けの情報検索講座やグレートブックスセミナーを開催します。	①平成18年3月に図書館ホームページに公開しました。 ②平成17年11月に全5回の情報検索講座を開催しました。(延べ参加人員 118人)グレートブックスセミナーについては、「生命と倫理」をテーマに全5回実施しました。
	横浜関連資料の収集・保存・活用	①地域資料および地元企業の関連資料を収集・紹介します。 ②貴重資料の公開・紹介を進めます。 ③文化財課と連携し郷土資料などの企画展示を実施します。(4地域図書館)	①市内大学・企業の資料を収集し、平成17年11月に資料コーナーを開設しました。また、全図書館で教科書展示会を行うとともに、採択教科書を図書館資料として常時閲覧できるようにしました。 ②「セピア色の横浜ライフ展」(平成17年8月23日～9月5日)と、「美空ひばり展」(平成17年12月21日～平成18年1月9日)を開催しました。また、図書館総合展(平成17年12月1日)及び横浜教育フェスティバル(平成18年1月14日)において、貴重資料をデジタル化した「都市ヨコハマの記憶」を紹介しました。 ③4地域図書館(保土ヶ谷、中、磯子、港北)で実施しました。
	市内大学との連携強化	①市内大学図書館の資料所蔵状況や利用方法に関する情報を提供します。 ②市内大学の大学紹介や講義要項等の資料を収集・紹介します。 ③横浜市立大学と連携して生涯学習講座を実施します。	①市内大学図書館リンク集を作成し、ホームページに掲載しました。 ②市内27大学のうち22大学からの資料提供を受け、資料コーナーに公開しました。 ③「健康医療フォーラム」を2回(平成17年10月8日、平成18年1月14日)開催しました。
ア図書 プ館を スタ 行い ツツ ます のレ ベル	窓口対応の向上	●利用者へのあいさつ・声かけを励行し、親切・ていねいな対応に努めます。	朝のミーティングや担当者会議等の場で、懇切丁寧な対応ができるように意識啓発を行いました。引き続き、職員の窓口対応の向上に努めます。
	職員の資質の向上	①利用者の要望等に十分に応えられるよう、職員の資質の向上に努めます。 ②IT関連知識・技術の習得などの研修を実施します。	①求められている知識・技能を修得するため、専門研修へ派遣しました。 ②各図書館ホームページを運用するために必要な基礎知識の習得と、日常業務におけるパソコン活用能力の向上を目的とした研修を、2回実施しました。

(注) ①レファレンス: 利用者の調べものや資料の相談などに対し、必要とする図書館資料の紹介や提供、情報入手の手助けを行うこと。  
 ②コンテンツ: データベースに蓄積されたデータや画像・音声データなどの内容・中身のこと。  
 ③ISO14001: 企業や自治体などが行う事業活動が環境にあたる影響を、組織的かつ継続的に削減するための管理システムを定めた国際規格のこと。  
 ④グレートブックスセミナー: 長く読み継がれてきた古典的作品などを題材に、参加者同士の対話を通して、本の読み方やディスカッションの方法論を学ぶセミナーのこと。